

支援センター名	稚内市体験活動ボランティア支援センター
所在地	〒097-0004 北海道稚内市緑2丁目社会教育センター内
連絡先	Tel 0162-24-4339 Fax 0162-22-7913

事業の概要とポイント

地域教育力活性化支援モデル事業「南地区プレーパーク事業」において、高校生のボランティアグループの協力を得て実施する。

関係した学校・団体等の名称

稚内内大谷高等学校 インターアクトクラブ

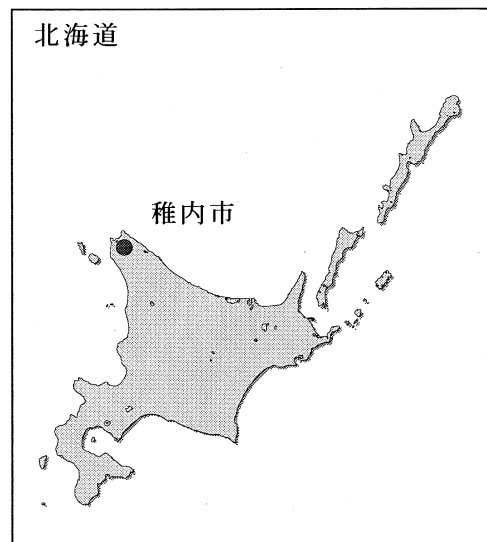
地域の現況・特色

活動対象地域の人口 稚内市 42,800人

稚内市は、日本の最北端に位置し、三方を海に囲まれた立地から水産業を中心に発展し、酪農、観光と併せて産業の柱としている。

近年は国境を接するロシア連邦サハリン州との交流が盛んになっており、商取引ばかりでなく、青少年の交流、スポーツ交流などが行われている。また、風が強く、今後市内の電力をほぼまかなえる規模の風力発電所の建設が予定されている。

稚内市は、昭和62年に「子育て平和都市」を宣言し家庭・地域・学校が連携した、市民ぐるみの子育て運動を展開している。その一環として平成14年に「子育て提言」を策定し、子育てに対する意識啓発を図っている。



企画から活動までの経緯

平成14年 7月 モデル事業「南地区プレーパーク」開設にあたって、設置地域の町内会、町内会子ども育成部、などと活動に対してボランティアの呼びかけを行う。

平成14年 9月 モデル事業実施

週末実施のイベントに数名のボランティア参加があったが、平日の活動におけるボランティア参加はほとんどなかった。

- 平成14年10月 モデル事業の活動充実のため、週に1回体育館を利用した活動に取り組む。
(平日実施)
- 平成14年12月 モデル事業の専任の指導員から体育館事業の対応が苦しいという相談を受ける。
協議の結果、稚内大谷高校に協力を要請することとする。
その後、同校ローターアクトクラブ担当教員に支援を依頼し、以後、部員の派遣を受ける。
- 平成15年 3月 平成14年度においては、年度途中ということもあり、体育館活動への部員の派遣は少数に留まったが、子ども会リーダー研修会などの他の事業でローターアクトクラブとの連携が図られた。
- 平成15年 6月 4月より、モデル事業は継続していたが、同クラブの体育館事業への支援は少数だったため、改めて依頼を行う。
以後、部員の増加もあり、毎回2名程度の支援を受ける。

事例の展開内容（特色など）

地域教育力活性化モデル事業「南地区プレーパーク」は、小学校区に児童館などの施設が未設置である市内南地区において、地域ボランティアの協力を得て、既存施設を利用し、放課後や休日における子ども達の遊び場を作る事業として実施。

平日は、午後から稚内市社会教育センター図書室を開放し、集団遊びやパソコンを利用した活動を行っている。

また、毎週水曜日に隣接する緑体育館を開放し、軽スポーツを中心に、参加した子ども達が集団で楽しむ活動としている。

土曜日の開設では、創作活動や屋外活動を取り入れ、この中で地域ボランティアの活用を図っている。

稚内大谷高校ローターアクトクラブはこのうち、体育館活動を部として協力をしていただいている。部員が、専任の指導員と子ども達と一緒にスポーツで汗を流して楽しみながら活動している。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

高校生が、平日にボランティア活動をするにあたって、義務的にならずに楽しむことを重視し、無理強いすることのないように専任指導員と打合せを行う。

数回参加すると、子ども達との関係が親密になり、やりがいが生まれてきたように見受けられた。

評 価

当市のモデル事業は、専任の指導員と地域のボランティアが協力して、放課後・休日における子どもの居場所作りを図ることを目的に実施した。稚内市体験活動ボランティアセンターは、モデル事業で活動するボランティアのコーディネートを中心に行った。

稚内大谷高校ローターアクトクラブはこの活動をきっかけに社会教育活動におけるボラン

ティア活動を広く行うようになった。

平成14年度においては、子ども会リーダー研修のサブリーダーとして、平成15年度においては、遊びのキャラバン隊活動に参加するなどが活動の場を広げている。

活動のきっかけ作りとして、モデル事業への同クラブの参加は効果があったと考えられる。

しかし、参加する高校生が、1高校に偏っているため、他の2高校にも働きかけが必要な点、団体がなくても個人として参加できる受け皿が必要な点が考えられ、今後の課題でもある。



南地区プレーパーク事業（「体育館あそび」）の様子



子ども会リーダー研修の様子

